

令和4年12月定例会 犯罪被害者等支援条例など20議案を審議

消防指令業務を宮城県南部13市町により共同運用する協議会設置のための議案に反対しました。本市の消防行政の不可逆的な大転換であるにもかかわらず、課題が十分に整理されておらず、市民の生命、身体及び財産を守るといふ消防の機能が揺らぐことが懸念される内容でした。コスト削減効果があることは確かですが、名取市消防から大河原へ5人が派遣されることによる職員の負担増加や、大規模災害発生時に対策本部との間に物理的な距離が生じることなど、弊害となる部分の想定が非常に甘いものに感じられました。採決の結果、賛成9反対10の僅差で、議案は否決されました。

名取市犯罪被害者等支援条例が可決されました。犯罪被害者等に対する総合的な支援を推進し、被害の早期軽減を図るとともに、市民が安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。犯罪被害者が直面する問題への相談や、必要な情報提供や助言を行うほか、遺族や傷病の被害を受けた市民を対象に一次支援金を支給することができるようになります。令和5年2月1日から施行されます。

令和4年度一般会計10号補正で、6か月から4歳の乳幼児を対象とする新型コロナウイルスワクチン接種に要する費用が、11号補正で、妊婦及び子育て家庭への経済的支援として妊娠届出時及び出生届出時に5万円ずつを給付する出産・子育て応援給付金の事業費が措置されました。

10月7日に開かれた臨時会において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により実施する地域応援プレミアム商品券、物価高騰対策支援事業など、緊急に予算化が必要な事業費を追加する一般会計補正予算が可決されました。

令和4年9月定例会 令和3年度決算など26議案を審議

令和3年度歳入歳出決算の審査を行いました。一般会計の歳入は436億9840万円、歳出は419億1858万円で、年度内に完了できなかった事業のための財源として6億9859万円を翌年度に繰り越します。

会派を代表し、歳入歳出決算に対する総括質疑を行いました。子ども家庭総合支援拠点事業を開始したことによる効果は「相談件数が年々増加する中で業務の効率化が図れた」、河川現況測量調査業務の進捗と課題は「市が管理する13河川について状況調査等を実施し、合計5河川で対策が必要とされた。できるだけ早期にゆんせつ等を実施し、流下能力の向上を図ることが課題である」、子ども心のケアハウス運営事業の成果は「学校・別室教室への登校や、卒業後に高校への通学ができるようになったケースや、周りと全く関わりを持たなかった児童生徒が周りと関わりを持ちながら明るく生活できるようになったケースなどがあつた」との答弁がありました。

財務常任委員会で、天然温泉を備えたビジネスホテルからの入湯税の徴収、債券運用に係る利息、教科指導の外部講師、不登校児童生徒の健康診断、学校給食の残食対策、在宅ねたきり老人等紙おむつ支給事業などについて質疑しました。

令和4年度一般会計7号補正で、放課後児童クラブの児童支援員等の処遇改善のための費用が、8号補正で12歳以上の市民へのオミクロン株に対応したワクチン接種費用、5歳から11歳の市民を対象とする3回目のワクチン接種費用、中学生及び65歳以上の高齢者等の季節性インフルエンザワクチン接種の無償化（市独自）のための費用が措置されました。

- 一般質問①**
デジタル地域通貨の導入について
- 一般質問②**
小山雨水調整池の整備について
- 市は、館腰承水路の流下能力を超えるために起こる館腰承水路北側の浸水対策として、小山雨水幹線と雨水調整池を新設し、流出抑制を図るとしている。
- 館腰承水路付近の浸水対策のスケジュールは、令和4年度より承水路の通水能力の向上と逆流防止対策工事を進めており、令和5年度に完了するとともに、小山雨水幹線と小山雨水調整池の測量設計に着手し、完成後に箱塚遊水池の工事に着手する。東北本線の横断管渠は令和5年度より設計を進め、令和7年度の工事着手を予定している。浸水対策の全体としては、令和14年度の完成を目指している。
- 第一中学校南側に整備される小山雨水調整池の概要と完成までのスケジュールは、現時点で貯留量7500立法メートルを見込んでいます。令和5年度から6年度に測量・設計、7年度に工事着手を目指しており、あわせて調整池に雨水を導水する小山雨水幹線の工事を進め、令和12年度の完成を目指す。
- 小山雨水幹線の詳細は、延長325メートル、口径1000ミリから1350ミリを計画している。
- 整備による効果を住民に説明する機会を設けるとともに、少しでも早い完成を目指すべき。
- 市のホームページにおいて広くお知らせしている。今後も適宜説明会を開催し、整備効果もお知らせするよう努める。少しでも早い完成を図れるよう、鋭意取り組んでいく。

- 一般質問①**
街路樹の管理について
- 街路樹は、道路空間に景観上の美しさを形成するだけでなく、夏の日差しを遮り、大気を浄化し、交通安全機能を高めるなど、生活環境の向上に寄与している。一方、時代の変化による市民ニーズの多様化や植栽後の年月の経過などの要因により、様々な問題が顕在化してきている。
- 市道街路樹の成長等に伴う課題は、車両や歩行者の通行の支障になる、信号機や道路標識が見えにくくなる、ムクドリなどが集結することによる騒音、根が舗装等を持ち上げる根上がり、維持管理費の増加など、街路樹の維持管理には様々な課題がある。
- 道路の落ち葉清掃を行う団体に落ち葉清掃物品を提供すべき。
- 道路の清掃には地域の皆様の協力が不可欠であることから、道路の維持管理に御協力いただける地域団体に対する清掃物品の提供について検討していく。
- 本市の街路樹は6千本を超えるため、成長を予想した上でなければ将来にわたる適切な管理は不可能である。近年、兵庫県伊丹市、仙台市、神奈川県藤沢市、東京都調布市など、街路樹に関する管理計画を策定する自治体が増えている。
- 将来にわたって街路樹の多様な機能を発揮させ、安全で快適な道路空間を維持するため、総合的な管理計画や指針を策定すべき。
- 地域の方々の意見を反映しながら維持管理を行っているが、地区や受託業者ごとに管理水準の違いが生じている。全ての地区に一定水準のサービスレベルが確保されるよう、まずは街路樹の維持管理マニュアルについて作成を検討していく。

- 一般質問③**
市長による模造銃所持画像のSNS投稿について
- 11月22日付河北新報朝刊に、市長がふるさと名取秋まつりの自衛隊の展示場所で模造銃を構える写真をSNSに投稿した事実が掲載された。
- 撮影から投稿に至る経緯、その後の対応は、自衛隊の戦闘車の前で撮影した、模造銃を構えた姿の写真を掲載したが、不快な思いをされた方がおられるということ削除した。
- 撮影は公務中の出来事との認識でよいのか。
- 公務中である。
- 戦闘車の前で銃を構えた自らの画像で、閲覧者にどういったメッセージを伝えたかったのか。
- 私の後ろ側に高所作業車がちょうど良い感じで写っていた。模造銃を持たない写真もあったが、構図が良かったので投稿した。
- SNS上でも経緯を説明し、お詫びを述べることが普通ではないのか。
- 私のSNSは明るい話題を伝えるために使うという考えであり、デリケートな問題をSNSで説明することは考えていなかった。
- 自衛隊による展示が適切に続けられるよう、混乱を招いたことに対して責任ある態度を示すとともに、不安をもたらさないよう説明に努めるべき。
- 実行委員会の皆様とも議論して検討していく。
- 一方で、現下の状況において、戦闘車の前で模造銃を構えた写真はSNSに投稿したことは、適切ではなかったと反省している。



「構図が良かった」写真二部ほかし

- 一般質問②**
校内合唱コンクールの上位大会について
- 本市では3つの中学校で7月に、1つの中学校で11月に、校内合唱コンクールが実施されている。
- 市内合唱愛好団体が校内合唱コンクールの上位大会を開催する場合、各学校から代表を参加させるには、どのような課題があるか。
- 上位大会への参加となると、本来の目的から外れてしまうことが懸念される。生徒が主体となり仲間と共に合唱を仕上げ、表現する達成感を味わわせることを大切にしたい。
- 民間団体が文化振興を目的として開催するイベントに、部活動ではない単位での参加の呼びかけがあった場合、学校の協力は可能か。
- 文化・芸術を振興させるために民間の団体が企画したイベントに、可能であれば学校が協力していくのは、当然のことだろうと思う。
- 一般質問③**
昭和三陸津波の標柱について
- 昭和三陸津波の標柱は、昭和8年に発生した地震による津波が到達した場所4地点に寄附金によって設置された石碑で、現存する第4号は、仙台東部道路西側の名取川右岸の堤防にある。もともと垂直に立っていたが、現在は南側に30度ほど傾いている。
- 標柱が傾いている状態を正常化し、名取市登録文化財であることを表示するなど案内板を更新すべき。
- 災害の教訓を今に伝える、貴重な登録文化財の一つである。碑の傾きや案内板への対応などについて、教育委員会と市長部局が連携し、名取川堤防のりり面部に所在していることから、河川管理者である国に相談していきたい。